

市長さんはじめ市役所の皆様方には、南相馬市民の為に尽力いただき感謝申し上げます。

私は、6月の議会へ意見書の提出をさせて頂き、市長さんはじめ、議員さん各位の皆さまには慎重にご検討いただき、処理水の海洋放出に伴う海底トンネル工事着工に関する工事を福島県に認可しない様にとのお願いの要請書を可決して頂きました。本当にお世話になり、ありがとうございます。この件に関しては、勿論、私だけではなく他の方も、同じ内容の意見書を提出された方がおられるとお聞きしています。しかしながら、内掘県知事と当地である双葉町と大熊町の首長さんは合議という形を通して、工事認可の許可を8月2日に出されました。残念でなりません。福一の現状についての状況把握をしたいと思い、東電からの情報等、色々な資料や各分野でのご活躍されておられる学者さんのお話を聞く機会がある度に、「福一の状況は一般住民が捉えている以上に危険な状態にあるのではないのか?」「処理水云々よりも緊急を要する事態があるのではないのか?」という不安が募ります。更には、最近では、日本全国あらゆる地域での地震情報があり、その上、台風や強風、豪雨など自然災害も頻発しています。震度3前後の地震がある度、真っ先に思う事は「福一は大丈夫?」という事で心臓がドキドキしてきます。先日も双葉郡で震度5弱の地震が発生したばかりです。

先日の夜、福島県事故対策検討会の森重晴雄氏による zoom での勉強会に参加しました。そこでは、話題提供とのことで、原発事故以来ずっと漫才の場で活躍されておられたおしどりマコケンさんとのデスクッションに参加しました。

題は、「福一1号機は今、どうなってる?」という内容(福島県事故対策検討会で検索)。

3・4号機のデブリは既に取り出し完了し、燃料プールに管理。しかし、1・2号機の燃料は溶けてしまい(3号機も?)デブリとなり、コンクリートやその他で有機化合物として格納容器の底に溜まっているとのこと。今回、ニュースでも報道されている通り、コンクリートが溶けてしまい鉄筋しか残っていない…(しかもコンクリートを支えているスカートと呼ばれる部分も破損?)との画像。これで度重なる地震が押し寄せれば、原子炉は揺れに揺れて、倒れてしまう危険性もあるとの事。森重晴雄さんのブログなどに分かり易く記載があります。森重さんからお名前を出すことでの了解は得ています。

処理水の海洋放出・海底トンネルも懸念されますが、もしもこの原子炉が倒れるような大地震が襲ってきまったら、東日本のみならず西日本も…避難しないといけない事態にもなりかねないという恐怖が襲います。私達が住むこの南相馬市は30km 前後に位置している地域。しっかりとした避難計画を作成しなければならないことになるのではないかと思います

しかし、原子力規制委員会委員長の更田さん(10月より山中さん)は「福一もかなり落ち着いてきているので、何かしらの有事の場合は、30km までの避難計画はせず、もっと狭めても」良いのでは?」と。11年前の原発事故の打撃が未だにあるというこの南相馬市です。悲しい限りです。

デブリの取り出しも重要であるとは思いますが、県庁原子力対策課でも「ペDESTアル内をカメラで調査を!」と訴えているとの事。福島県には、59市町村があります。その首長さんにも色々な情報発信をして頂き、意見交換してこそ、福島県政なのではないかと思います。処理汚染水の海洋放出も大事であるのは間違いありませんが、炉心の方が重大なのではないかと思います。今一度、この福一の原子炉の実態を知ってほしいと思います。

もう一件ですが、7/16~10/1 まで 4 回にわたって、ふたば未来学園内で早稲田大学教授の松岡俊二氏を塾長として「地域塾なるものが開催されました。福一の視察も計画に盛り込まれ、「廃炉の先を考える、語り合い、学び合いの場」というテーマでのグループワークでの討議がありました。地域の中で「廃炉」を捉え、考えるのは当然であります。しかし、大学生や高校生を中心に誰でも廃炉について関心がある人が入って、議論し合います。具体的には、双葉地区内の田畑の耕作作業をする体験…という話も出たようです。あまりにも飛躍過ぎるのではと思います。「ふくいち周辺環境放射線モニタリング・プロジェクトチーム」による線量計でのモニタリングを、先日、大熊町の特定復興再生拠点区域を測定参加させて頂きました。ホットスポットもありました。なんと土壌

汚染は 7,500,000Bq/m³もありました。地域塾においては、廃炉について難しいので、東電スタッフに対して分かり易いパンフレット作製の提案などもありました。それは知識として知ることなので良い事であるとは思いますが、この地域塾というものは、福島県の市町村全体で考えていくべきものではないかという気がしました。イノベーションコースト構想もあって然るべきではあります(11/27 ゆめはつとでのセミナーに参加しました。副市長さんがおいでになり南相馬市との提携を結んだとのこと)。故に、南相馬市長さんにも、こういった企画があったという事を知って頂きたい事。塾長の松岡さんも福島県内の首長さん方、議員さん方にも捉えて考えてもらえると何より大事だという仰っておられ、そして、この動画は、公表するという事ですので、お忙しいとは思いますが、「地域塾ふたば未来学園、又は早稲田大学の松岡俊二教授」を検索して頂ければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

続いてもう一件について、お便りします。

南相馬市の原町区高倉行政区には、国見山があります。先週の木曜日、先の「ふくいち周辺環境放射線モニタリング・プロジェクトチーム」に参加させて頂き、この国見山山頂までの道のりを地図上250mメッシュでのポイントごとに放射線を測定しました。現在はここ数年の台風や大雨・強風によりこの山々のいたるところが崩壊し修復作業している最中であり、高倉ダムから横川ダムの山道は通行禁止でした。が、歩いていくにはその注意する看板はありません。ご存じの通り、この国見山への登山道は、四方八方あらゆる場所からあります。その場所の確認はしていませんが、山頂までの地点ポイントを測定しながら歩きました。結構な空間放射線量の割には、一つも注意看板はありませんでした。「ふくいち」では、毎回データは南相馬市役所へもお届けしているという事です。

放射線量がまだまだ高いこの国見山周辺において、誰もこの事実を知らないと思いますので、どうか看板などの注意書きを立ててほしいという願いをしたいと思います。

知らないことはとても危険な事であり、こうした配慮をすることで、市民の皆様方にも注意して頂ければと思います。命を守り暮らしを守ることは、安定した生活をする上で、とても重要だと感じます。よろしくお願いいたします。

最後に、昨日、いわき市にてシンポジウムがありました。汚染水の海洋放出について。東電と経産省エネルギー庁の方々はおいでになられ、色々と説明をされていましたが、市民がどうこう言っても方針は変わらず…と、いった感じです。そこで、このシンポジウムの中で、全国で汚染水の海洋放出についての公聴会開催という事をお願いしましたが、それも今のところ予定はないということでした。そこで可能であれば、南相馬市としての公聴会開催を申し出て頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

南相馬市原町区高倉住民 S